

研究課題名	急性期脳梗塞の治療と予後に関する研究
実施責任者	所属・職名：脳神経外科 部長
	氏名： 鈴木 宰
研究の概要	<p>脳の太い血管の閉塞による重症な脳梗塞の超急性期の場合は、機械的再開通療法（カテーテル治療）により、しばしば後遺症が軽減されるようになってきています。脳卒中ガイドラインでも強く推奨されており、近年、多くの患者様に対して施行されているのが実情です。しかしながら、脳梗塞の原因は多種多様であり、その背景も違うことから個々の患者様では必ずしも満足できる結果が得られないことも多く経験します。</p> <p>そこで、名古屋大学脳神経外科及び当院を含めた関連施設で、上記治療を施行した多くの患者様のデータを詳細に解析することで、個々の病態に応じた適切な治療方針、最も有効な治療法や予後などを明確にするための研究を予定しています。</p>
対象となる個人情報	生年月日、イニシャル、患者背景（年齢・性別・既往歴・併存疾患・喫煙・入退院時 modified Rankin Scale）、画像情報、脳卒中の詳細、治療部位・治療手技、神経学的予後、術後合併症、その後の脳卒中の有無
実施の期間	西暦 2023年 3月 1日より
	西暦 2025年 12月 31日まで
研究対象	上記期間に機械的脳梗塞再開通療法を施行した方